

平成 30 年度「犯罪のない安全で安心なまちづくりに係る市民アンケート」の結果 概要版（H21－H25－H30 対照版）

調査概要

【調査地域】札幌市内

【調査対象】満 20 歳以上の男女個人

【標本数】平成 21 年 1,000 人（回収数 563）（56.3%）

平成 25 年 1,003 人（回収数 544）（54.2%）

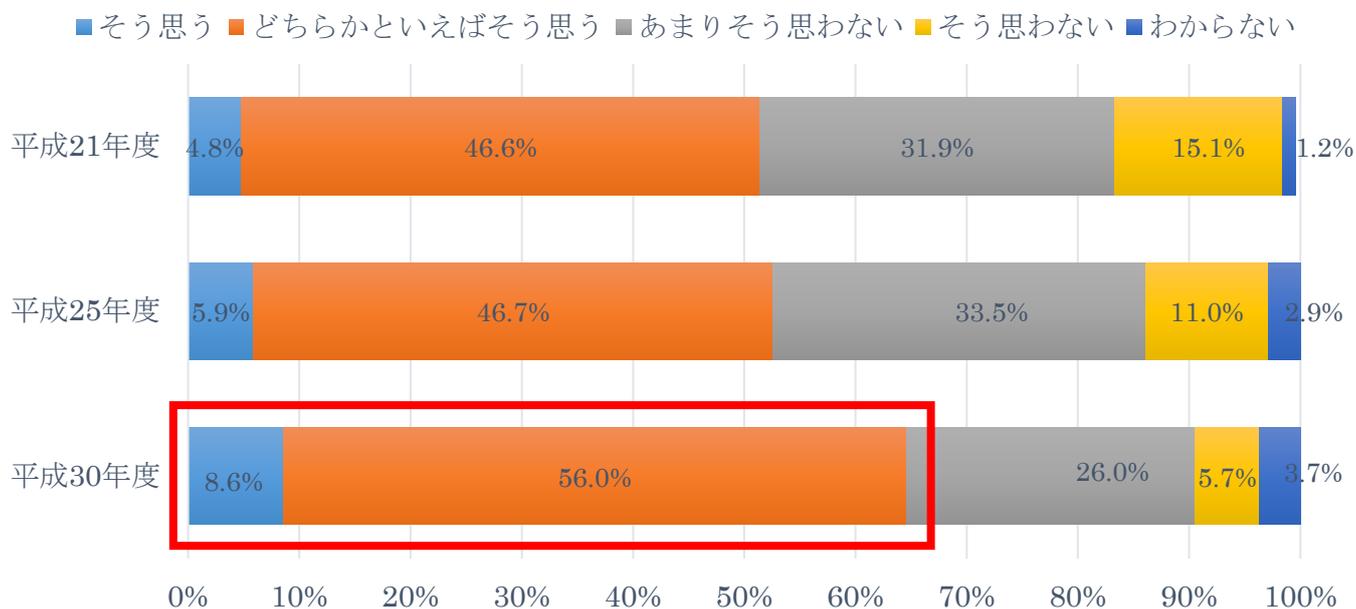
平成 30 年 1,000 人（回収数 350）（35.0%）

【調査方法】調査票を郵送し、返信用封筒で回収

【抽出方法】住民基本台帳から、標本の抽出を行う「等間隔無作為抽出法」

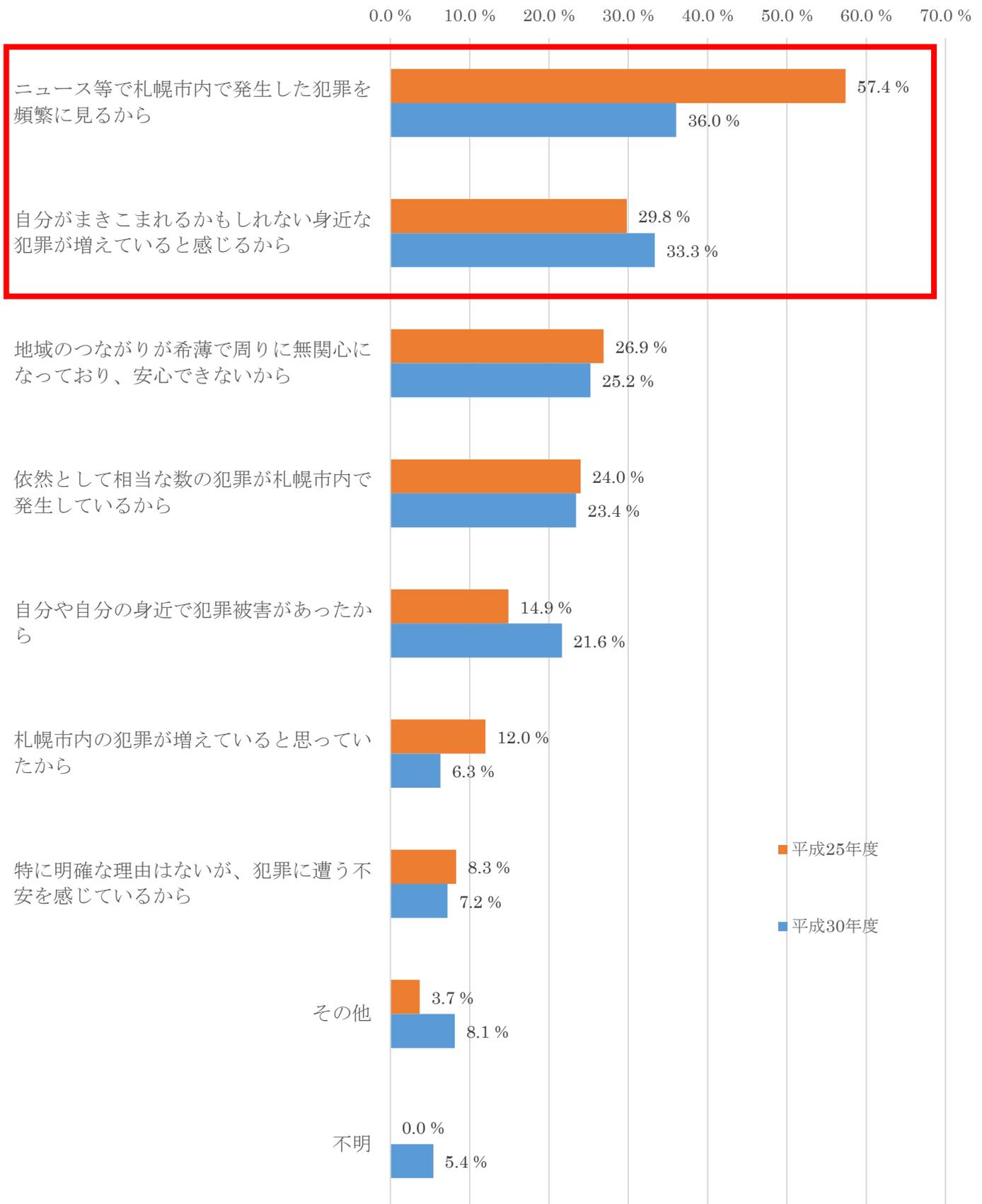
1-1 札幌市が「犯罪のない安全に安心して暮らせるまち」と思うか

⇒ 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、増加



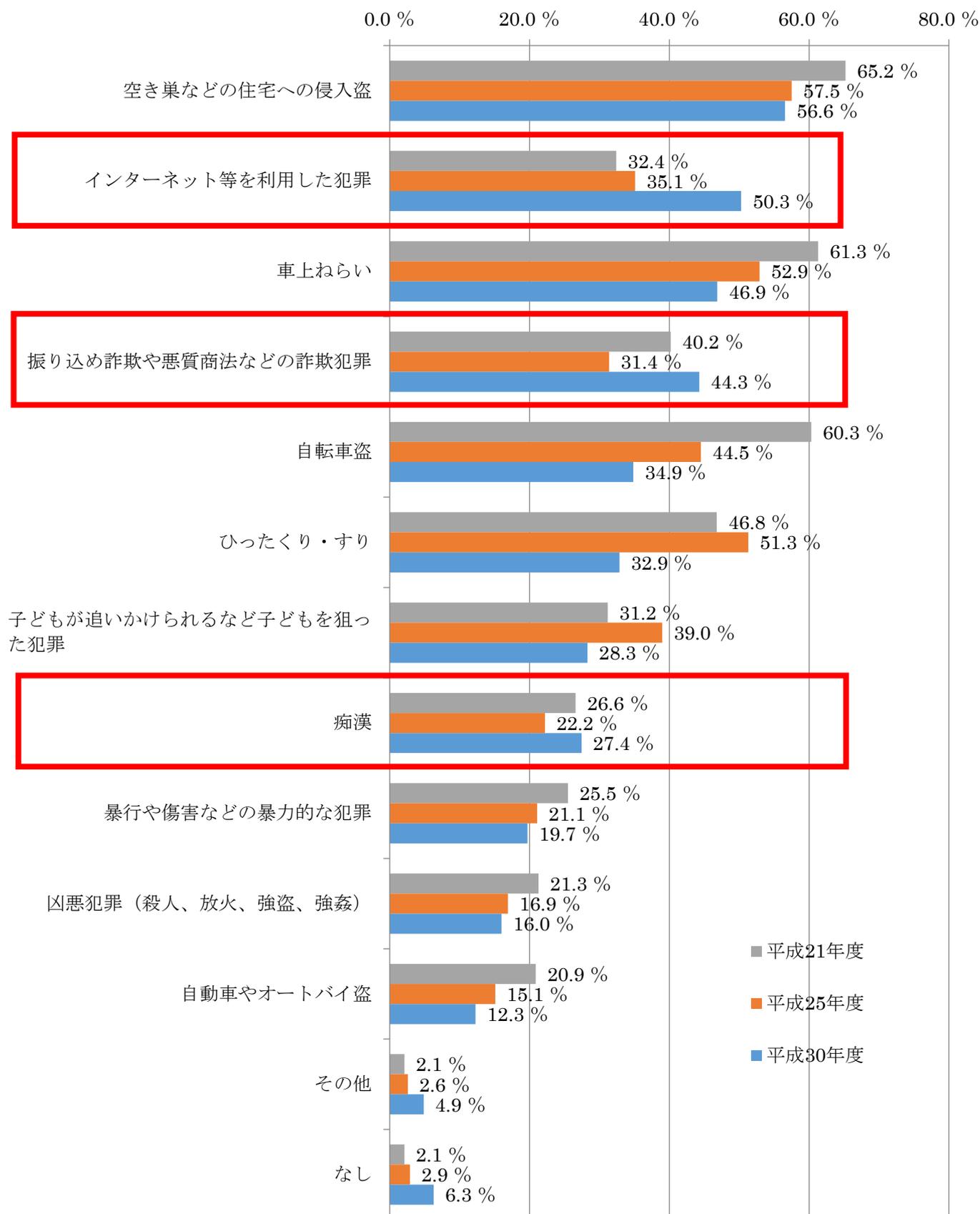
1-2 札幌市が「犯罪のない安全に安心して暮らせるまち」ではないと思った理由

⇒ 「ニュース等で札幌市内で発生した犯罪を頻繁に見るから」が大きく減少しているものの、「身近な犯罪が増えていると感じている」が増加



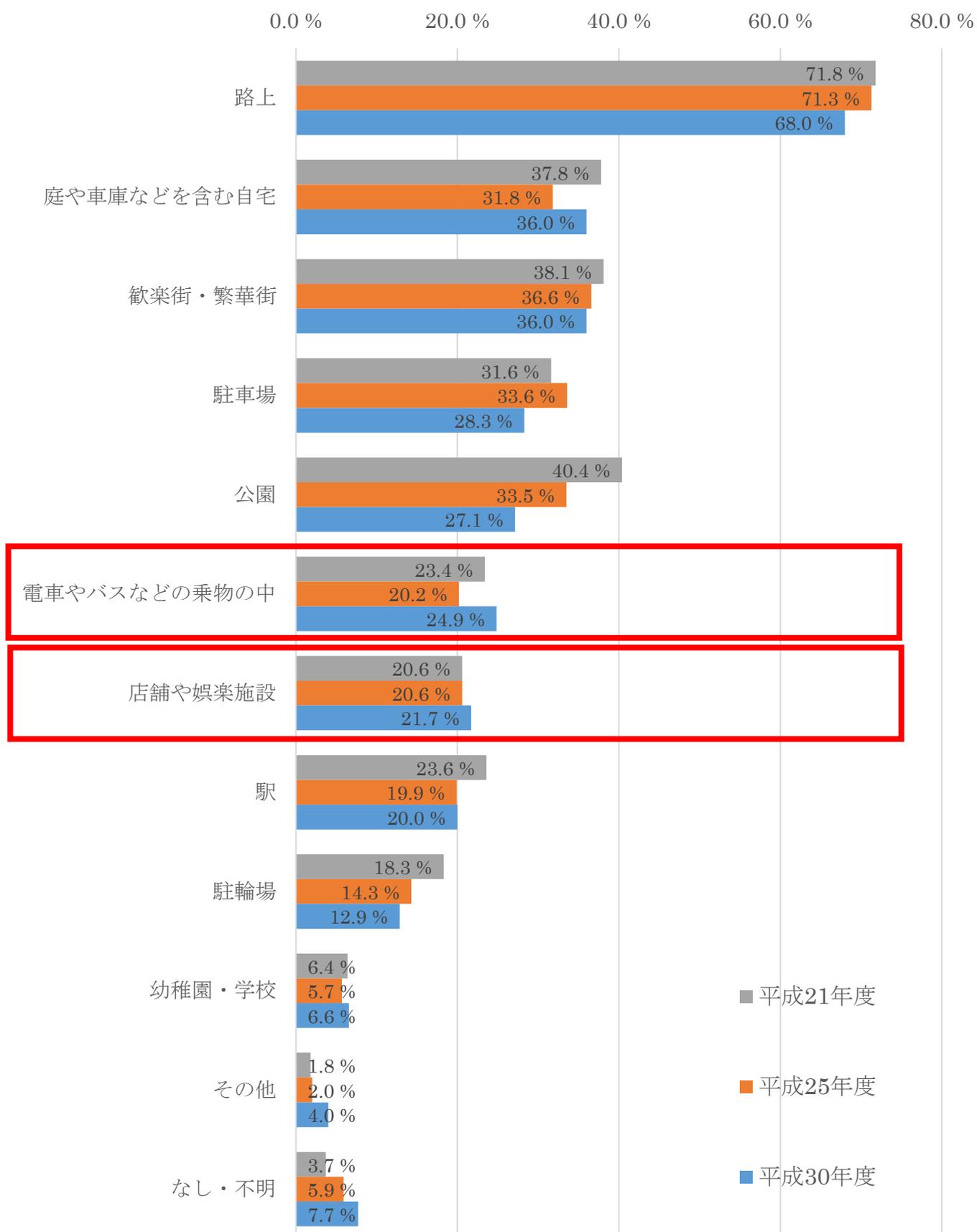
2 犯罪に遭うかもしれないと不安に思う犯罪

⇒ H21 年度と比較して「インターネット等を利用した犯罪」が大きく増加するとともに、「詐欺犯罪」や「痴漢」が増加している。一方でその他の犯罪は減少傾向となっている。



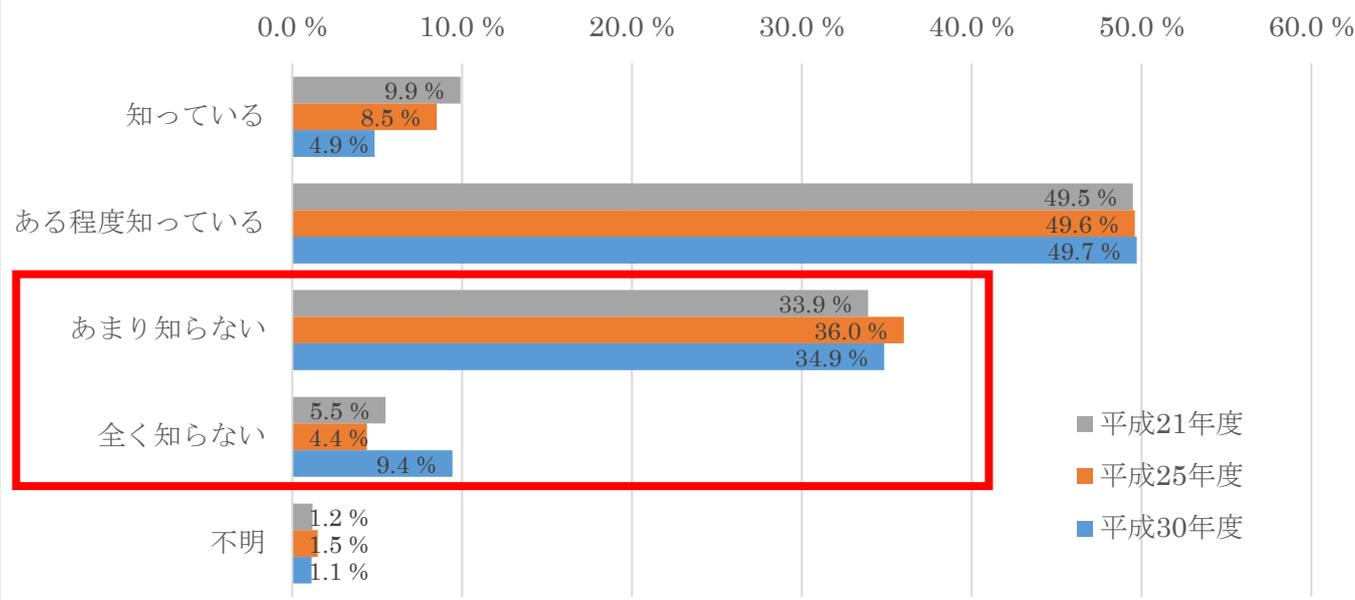
3 犯罪に遭うかもしれないと不安に思う場所

⇒ H21 年度に比べて全体的に回答割合が減少しているものの、「電車やバスなどの乗物の中」や「店舗や娯楽施設」は増加している。



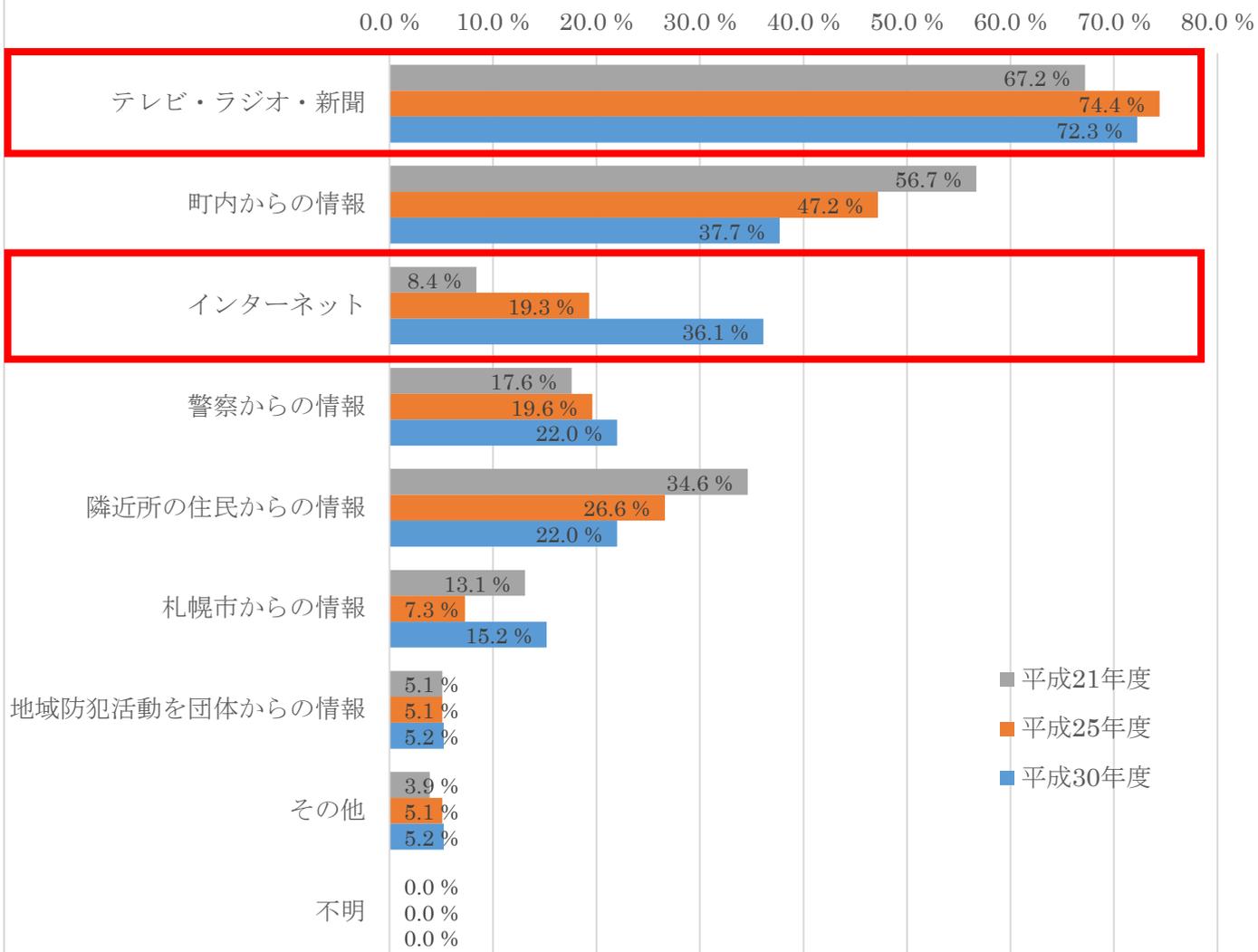
4-1 地域や身の回りで起きている犯罪の認知

⇒ 半数近くの方が「あまり知らない」「全く知らない」



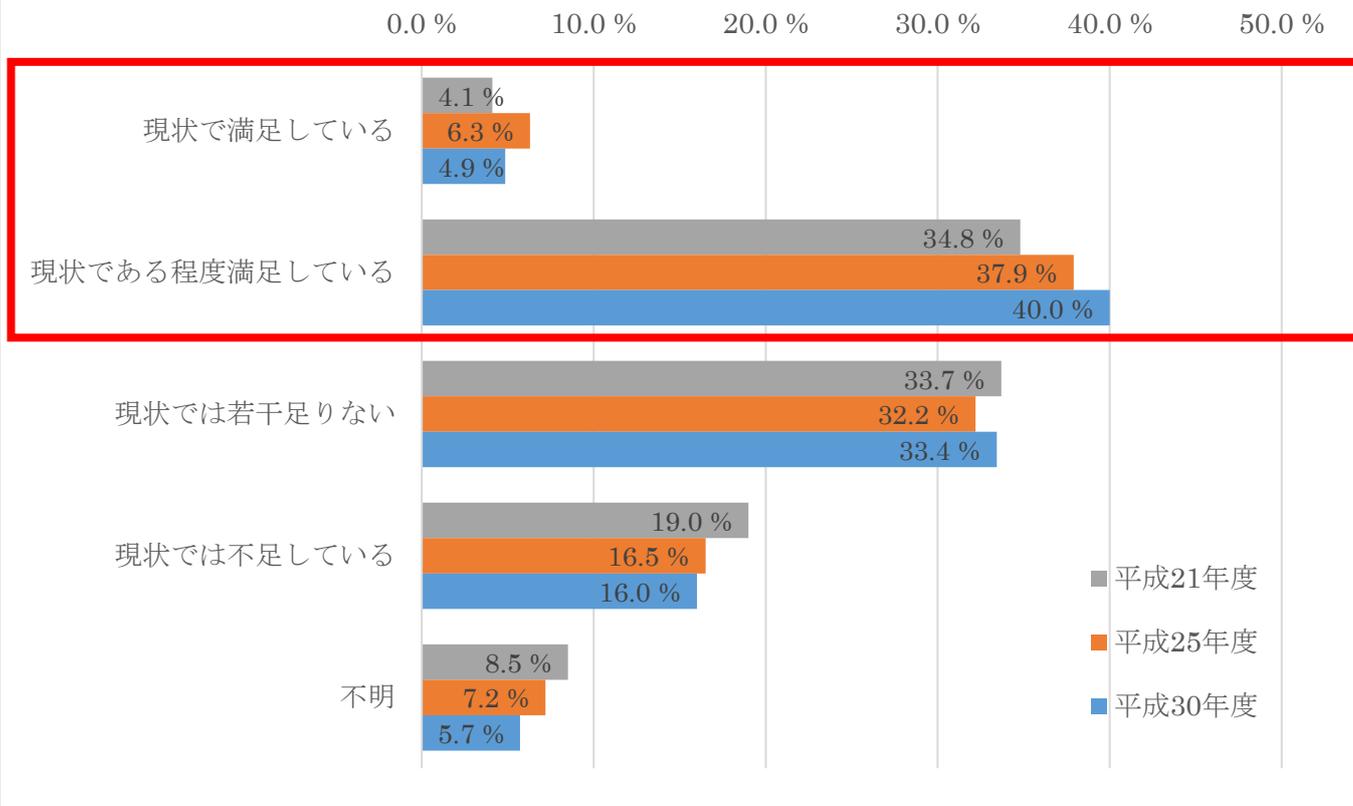
4-2 地域や身の回りで起きている犯罪の認知経路

⇒ 「テレビ・ラジオ・新聞」が変わらずに大きな割合を示しているほか、インターネットが大きく増加



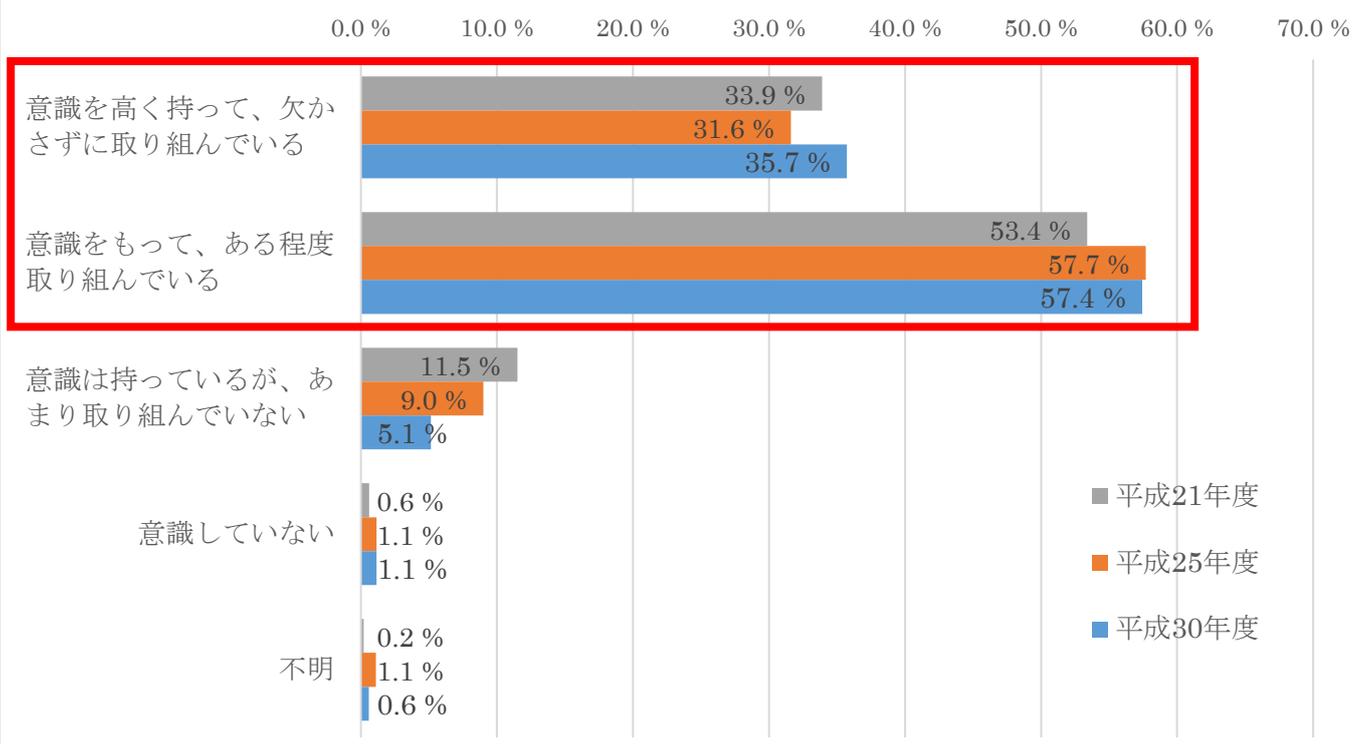
5 住んでいる地域や身の回りで起きている犯罪に対する情報量

⇒ 「現状で満足している」「現状である程度満足している」の合計はH21年度から徐々に増加



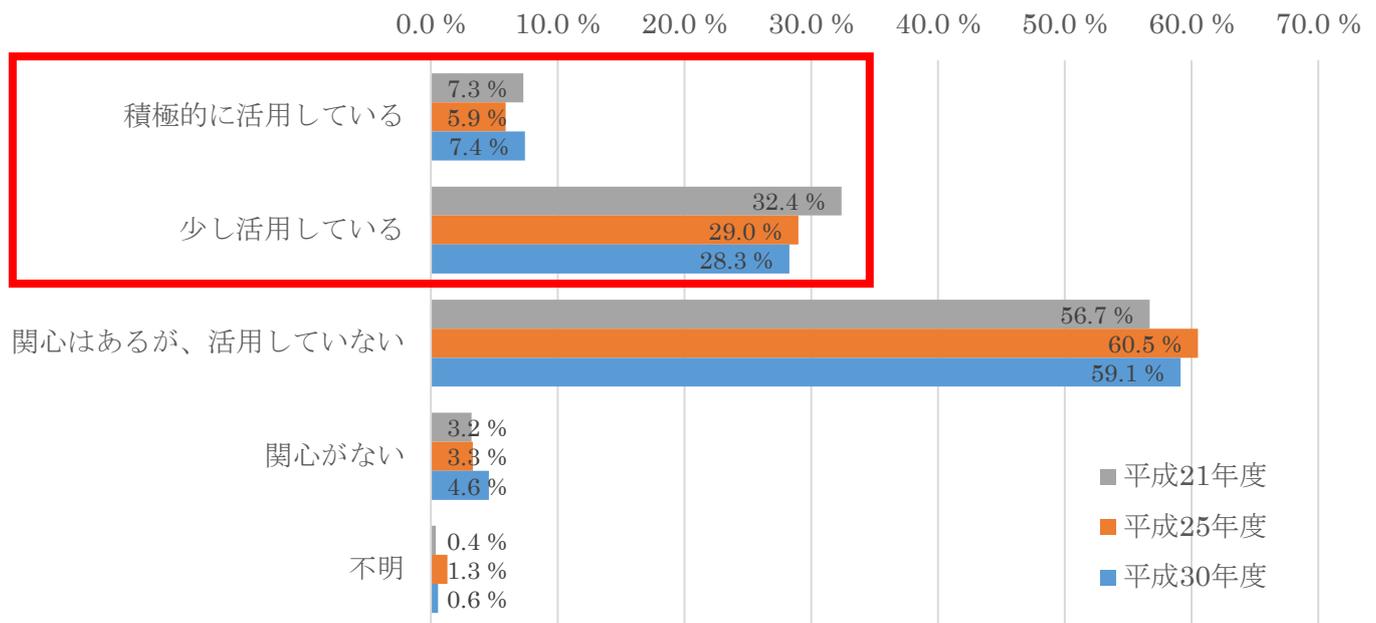
6 簡単にできる防犯対策を日頃の程度取り組んでいるか

⇒ 「取り組んでいる」が高い割合で推移しているものの、「欠かさずに取り組んでいる」が「ある程度取り組んでいる」よりも少ない



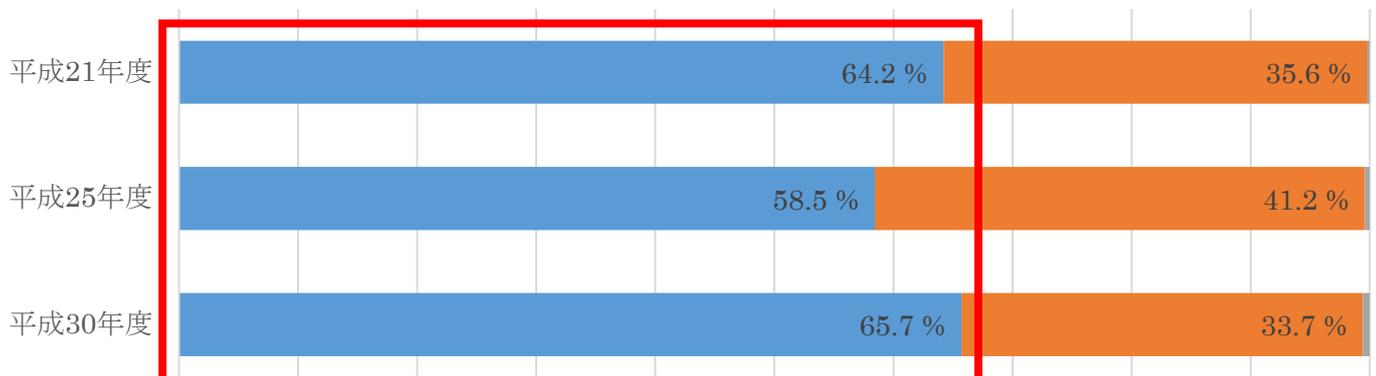
7 防犯グッズの活用

⇒ 「積極的に活用している」、「少し活用している」の合計割合が年々減少



8-1 地域防犯活動の認知状況 ⇒ 「知っている」が増加

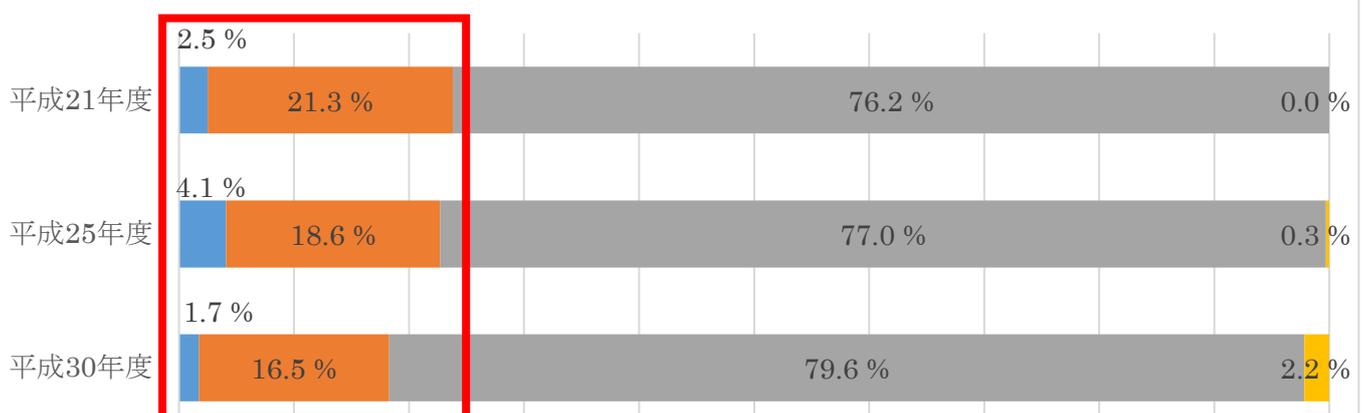
■ 知っている ■ 知らない ■ 不明



8-2 地域防犯活動の参加状況

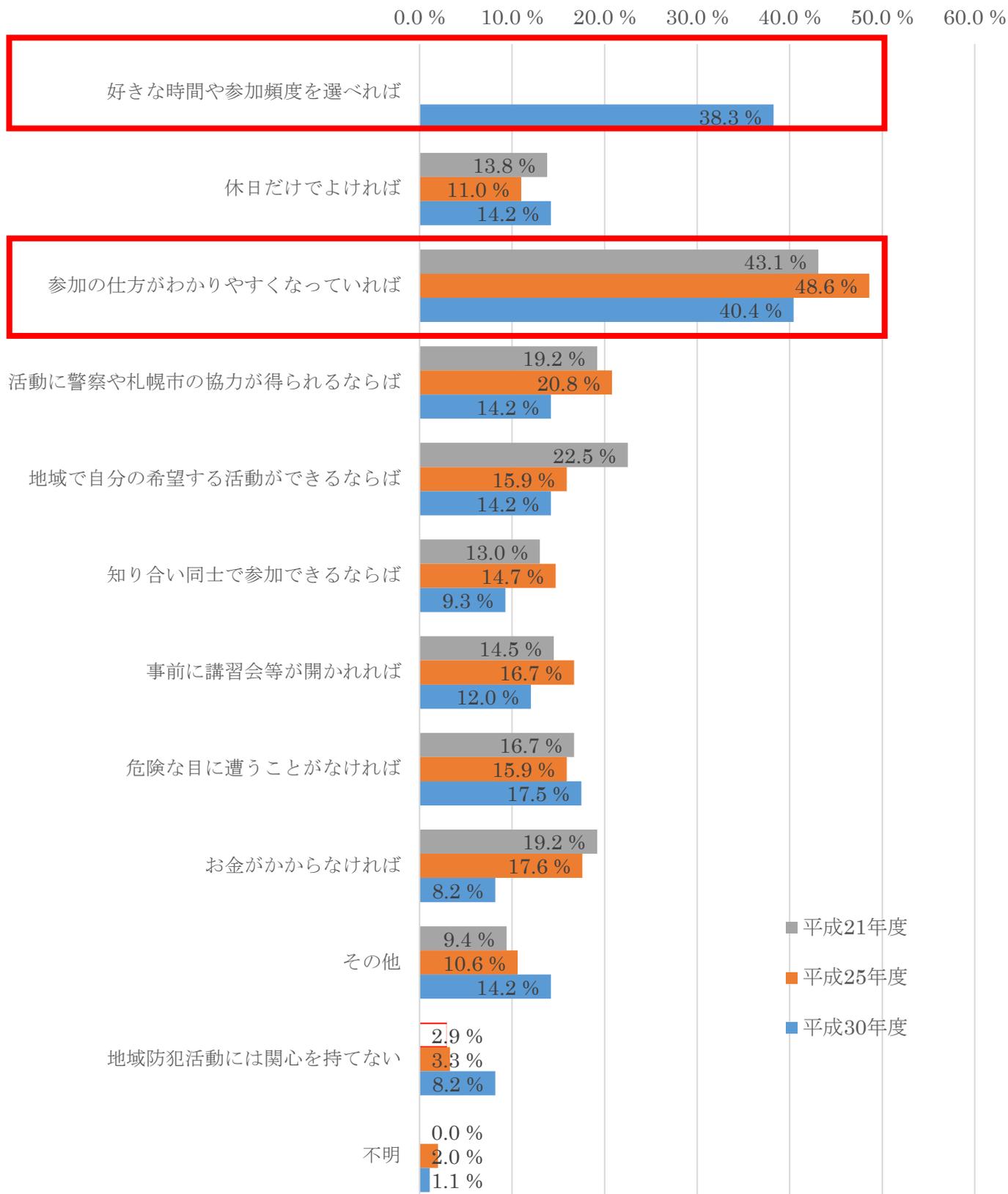
⇒ 「積極的に参加している」「参加することがある」の合計割合が年々減少

■ 積極的に参加している ■ 参加することがある ■ 参加したことがない ■ 不明



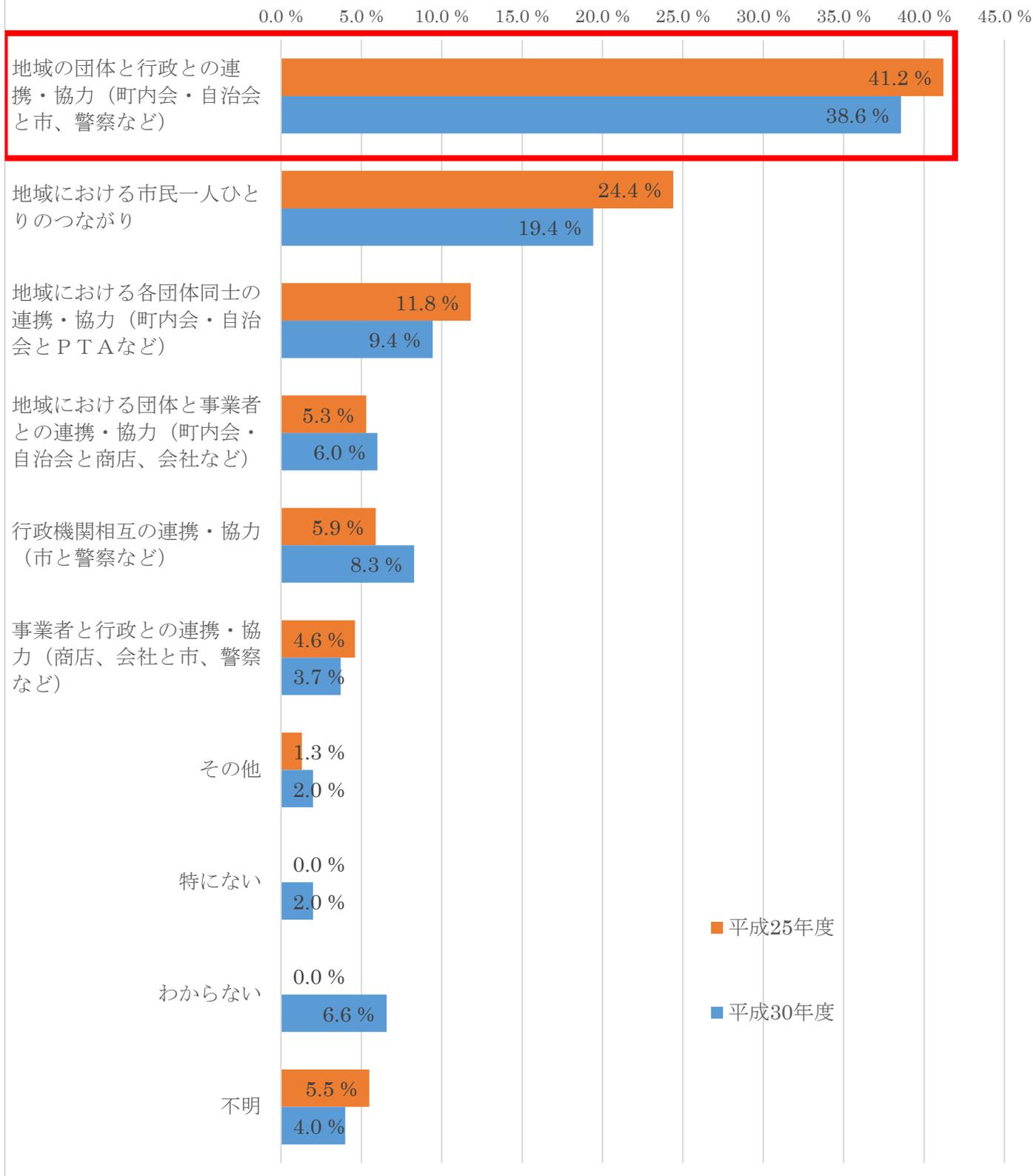
8-3 地域防犯活動に参加するために必要な条件

⇒ 「参加の仕方がわかりやすくなっていれば」「好きな時間や参加頻度を選べれば」が
高い割合



9 主体間の連携で最もつながりを強めるべきもの

⇒ 地域の団体と行政との連携・協力（町内会・自治会と市、警察など）」が高い割合で推移



10 安全で安心なまちを実現するために札幌市に期待すること

⇒ 全体的にはH21 年度及び 25 年度から割合が減少しているものの、「見通しの悪い場所の改善や街路灯の設置など、犯罪防止に配慮した環境整備」が高い割合を維持

